

コロナ生活 学生苦悩

3/19 本誌

大学生協連調査

全国大学生生活協同組合連合会（全国大学生協連）は8日、東京都内で「第56回学生生活実態調査」結果を発表しました。コロナ禍での初めての調査。オンライン講義やアルバイトの減収など生活の急激な変化に、学生の戸惑いや苦悩が表れました。

調査は昨年10～11月に実施。国公立30大学の1万1028人が協力しました。

学生の収入、支出ともに大きく減少。特に収入では、アルバイト収入の減少が目立ちます。自宅生で前年比3550円、下宿生で7240円減りました。

支出の減少は食費や教養娯楽費などで、「コロナ禍での行動制約が見て取れる」としています。奨学金は「給付型」の受給が微増

目立つ減収 ■ オンライン講義 87%

でした。

学生の日常生活ではオンライン講義を受講する学生は全体で87.5%、1年生では95.3%。1週間の登校日数「0日」は4人に1人。平均登校日数は2.0日。前年から2.6日減少。「友だちができない（いない）」ことが気にかかる1年生は3人に1人となっています。

学生生活の意識ではオンライン講義により「授業形態」や「登校日数」が急速に変化。特に昨年、サークルに加入した1年生は48.7%で前年比34.1%減でした。「学生生活は充実している」が急激に減っています。2～3年生では、「就職活動」への不安が増大。SDGs（持続可能な開発目標）では「ジェンダー平等を実現しよう」への関心の増加が目立つとしています。

48%「精神的変化ある」

民青高知県委調査

日本民主青年同盟高知県委員会（民青）は8日、高知県庁で記者会見し、食料支援を利用する学生の実態調査の結果について発表しました。

実態調査のアンケートは昨年12月から今年2月にかけて実施し、233人が回答。

前期と比べて、52%が金銭的な変化があると回答し、「アルバイトが減った／なくなった」が最も多くなっています。「アルバイトのシフトが減らされ、収入が11月の10万円から12月は1.5万円に減り、生活できない」などの声が寄せられました。前期と比べて48%が精神的変化があると答え、「意欲がわからない」「気

学費が負担 64% ■ 予算拡充を

分が落ち込んでいる」などが多くなっています。64%が学費を負担に感じ、学費値下げを求める声が多く寄せられました。

会見で岡田はるか県委員長は「学生が高すぎる学費のためにアルバイトをし、多額の奨学金を借りることで高等教育が支えられていることが、コロナ禍によって浮き彫りになった。教育予算を拡充し、未来を担う世代が安心して学び社会に出ていく政治への転換を求めて運動を続けていく」と述べました。

食料支援のボランティアに参加している学生3人が同席し、困窮する学生の状況などについて報告しました。